



活れは帰る前に落としちつ 子どもに「遊んでいいよ。でも汚さないで」は不可能です。しかし、汚れ しちゃうこと。足取り軽く帰れますよ。 た服の洗濯は嫌ですよね。オススメは、汚れた服や靴を公園の水道で洗濯

プレークを楽しむ五ヶ条

2. ダメーと言う知に海平及 羨ましそうに眺めながら遊び始めない子に「どうして?」と聞くと、「マ

3、「外遊びかけらいなくろはいません

る子には「このダメは本当にダメ?」と考えてから、声がけしましょう。 マに怒られるから……」という返答は多いのです。とくに大人の指示を守

野外、それも自然や異年齢が集まる場所で、自由に遊んでいいと言われて が増えれば子どもは変わります。外で遊ぶ力は、積み重ねで身につきます。 も、どうしたらいいのかわからない子も少なくありません。しかし、体験

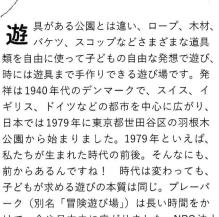
最初は大人もいしに遊んでください

たがります。そのときは、どうぞ一緒に遊んでください。何度か通ってい とくに小さな子の場合、慣れない場所では大人にいっしょに遊んでもらい るうちに、子どもは友だちを見つけて自分から離れていきますよ。

与 「おもしろがったりは心しているだけです

スを奪います。子どもの柔軟性や発想力は、大人とは違います。大人はそ 大人が遊び方を教えたり指示したりすることは、子どもの脳が動くチャン

の違いを、おもしろがったり感心したりしているだけでいいんです。



けて、今や日本中に広がりました。NPO法人日本冒険遊び場づくり協会(http://bouken-asobiba.org/)に登録されているのは全国400カ所程度。運営は、地域の大人たちが不定期に開催しているものから、行政がNPO等地域団体に委託して定期開催しているものまで、さまざまです。





五感を使って遊び倒す土、水、木、風、火。

は、具体的にプレーパークは、どんな場所で、何をして遊んでいるのでしょうか? 開催場所は、専用の公園、大型公園の一部を使用、竹林や畑などを使用とさまざまです。ただし、土、木葉、虫、水、火など、自然的な要素で遊べることは共通。穴を掘る、堀った穴に枯れ葉を敷き詰めてダイブする、焚きと、ブルーシートで風をつかまえる、ウォータースライダーを作るなど、遊び方は自由自在。子どもたちは五感をフルに使い、豊かな発想と想像力で自然をとことん楽しんでいます。

危ないことは禁止という風潮の今、プレーパークではなぜこのような遊びがで

きるのでしょうか? それは、プレーパークには「プレーワーカー」がいるから。プレーワーカーは、遊び道具類を管理しながら、安全かつ子どもたちが思い切り遊べる環境を整える専門職。また、子どもは小さなけがを繰り返しながら自分の身を守るカンどころを体得するので、大人が先回りして子どもがひやっとする体験を取り除くことはしないという、プレーパーク共通の考え方があるからです。

